

市長提案説明要旨

令和3年8月31日

本日ここに令和3年第3回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出いたしました議案などの説明を申し上げます。

《はじめに》

<新型コロナウイルス感染症の情勢>

7月に入り現在なお猛威を振るっている第5波となる新型コロナウイルス感染症の状況につきましては、「デルタ株」の割合が急増するに従い、全国的に一日の新規陽性者数が過去最多の人数を連日更新するなど急拡大し、現在、茨城県を含む21都道府県に「緊急事態宣言」が、12県に「まん延防止等重点措置」が、来月12日を期限として適用されています。

また県におきましては、独自の「非常事態宣言」を同じく来月12日を期日として発令しており、国の「緊急事態宣言」と併せて県内全域に適用しています。現状、新規陽性者数は、なかなか減少せず、散発的にクラスターの発生が続くなど、非常に厳しい状況となっています。

本市におきましても、7月下旬以降、一日に10名以上の陽性者が確認されるなど、大変憂慮すべき状態にあり、この間、市民の皆様に対しましては定期的に防災無線やSNS等により、改めて感染予防の基本的な行動を呼びかけております。「自身、そして、大切な人を守る」ことを念頭に、市民の皆様には「マスクの着用」「手洗い」「密の回避」「換気」を徹底いただくとともに、不要不急の外出・移動、県境をまたぐ往来を極力自粛いただきますよう、切にお願いいたします。

この非常に厳しい状況の中で、医療基盤が脆弱な鹿行地区においては、より一層、新型コロナウイルス感染症に対応した施策の充実が求められます。先般、私を含め鹿行地区の5市長により、茨城県知事に対し、地区内における受入れ病床の確保及び拡大、地域の発生状況に応じた情報の共有化、市民への支援などについて強く要望してまいりました。

一方、地域の保健医療の要となる保健所においても感染症対策がひっ迫し、対応する人員が感染拡大に追い付かない状況にあります。この度、県からの新型コロナウイルス感染症に係る職員の支援についての依頼により、市民の安全・安心のために市保健師1名の派遣を決定いたしました。派遣期間は1か月を予定していますが、引き続き各医師会をはじめ医療機関の皆様のご支援のもと、保健所、市が一丸となり最大級の感染拡大防止に努めるとともに、更なる連携強化を図ってまいります。

市内飲食店や大規模集客施設におきましては、時短営業など非常に大きな打撃を受けている中、各店舗における感染症対策等、皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。今般、国より経済活動に影響を受ける事業者への支援を目的に「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」が追加交付されることとなりました。現在支援内容の検討に努めておりますので、決定次第お知らせいたします。事業者の皆様には、今後とも引き続き感染防止に努めていただきますようよろしくお願いいたします。

期間中に市が主催する各種事業につきましては、中止、延期、実施をそれぞれのリスク、必要性を考慮し判断させていただいております。併せて市所管の社会教育施設や体育施設につきましても、利用を制限させていただき、大変ご迷惑おかけしますが、利用者の皆様には、今しばらくお待ちいただきますようお願いいたします。

そして、小中学校におきましては、本来であれば明日から2学期が始まるのですが、保護者の皆様には既にお知らせしておりますとおり、緊急事態宣言の期日となる12日までを臨時休業といたします。新学期を楽しみにしていた児童生徒の皆さん、保護者の皆様にはご負担をおかけすることになり申し訳ありませんが、休業期間中も学びを止めることの無いよう取り組みますので、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。また、現在、市内小中学校教職員のほぼ全員がワクチン接種を済ませております。学校においては、引き続き出来得る限りの感染症対策を講じてまいりますので、児童・生徒の皆さんには、再開後、元気な姿で登校してもらいたいと思います。

そのワクチン接種につきましては、鹿島医師会の松倉会長を始め市内医療機関の先生方の強力な支援体制のもと、接種体制を構築し推進しており、8月26日現在、65歳以上の高齢者のうち、86.3%の方々の2回目接種が完了しております。これに伴い、高齢者の感染者数は昨年度と比べ明らかに減少しており、ワクチン接種により発症と重症化の予防効果が確実に出ているものと考えております。

一方で、20歳代から40歳代の若い世代の感染が60%と多くを占め、また「知人・家庭内」の感染が72%と非常に高くなっていることから、特にワクチン接種ができない小さな子どもがいるご家庭では、保護者の方のワクチン接種が、お子さまを感染から守る意味でも大変重要になります。現在、接種を希望される12歳以上の全ての方の予約が可能ですので、是非、積極的に接種をご検討いただきますようお願いいたします。

また、これまでの通常診療に加え、ワクチン接種を含めた新型コロナ感染症の対応に献身的に当たられている医療従事者の皆様には、心から感謝し、改めて御礼申し上げます。市としましては、関係機関と連携し、必要な対策を講じながら市民の皆様への不安軽減に努め、この難局を乗り越えることができるよう取り組んでまいりますので、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

<東京2020オリンピック等>

7月22日から8月5日まで、東京2020オリンピックサッカー競技が茨城カシマスタジアムで開催され、また、それに先立ち7月4日には聖火リレーが実施されました。

聖火リレーにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により公道での実施を中止する自治体が多い中、茨城県では、生憎の雨模様ではありましたが予定どおりの実施となりました。千葉県から繋がれた聖火は、「鹿島神宮」から「カシマスポーツセンター」まで、「かしま大使」である研ナオコさんを始めとした20名及びジーコさんら5名から成るアントラーズレジェンドにより繋がれました。笑顔で手を振りながら走る聖火ランナーの晴れやかな表情を目のあたりにし、ランナーの皆様にとりましては、「かけがえのない経験」そして「一生の思い出」となったことと思います。

東京2020オリンピックは、ご存知のとおり、ほとんどの会場において無観客開催となる中、茨城カシマスタジアムのサッカー競技については、原則無観客・「学校連携観戦プログラム」のみが実施となりました。

私は、オリンピック開催を、次代を担う子どもたちの健やかな成長につなげてまいるたいとの思いから、開催決定後、教育の場において様々な関連事業に取り組み、「学校連携観戦プログラム」をその集大成と位置付け対処しました。実施に際しては、様々なご意見をいただきながら、感染症そして熱中症対策に最大限の注意を払い万全を期して準備を進め、実施期間中も台風の影響などのご心配をおかけしましたが、無事実施することができ、安堵したところです。私自身、事業を実施した3日間いずれも会場に足を運び、子どもたちを出迎えました。瞳を輝かせ笑顔で、コロナ禍により会場での応援ができなくなった各出場国のサポーターに代わり、それぞれのチームを応援する様子は、大変微笑ましいものでした。また、事業実施に前後して、出場国の大使館を始めとした関係者や出場した選手などから感謝のメッセージが届けられております。ツイッターや国内外のメディアにより、本事業が取り上げられ、子どもたちの純粋な応援が世界中で評価されるとともに「KASHIMA」の名が国内外へ発信されたことは、大変誇らしく、また嬉しくもありました。

参加した子どもたちには、オリンピックを直に観戦したこの貴重な経験を加え、また参加しなかった子どもたちも、応援に対する反響やこれまでの学校での事業、あるいはテレビ画面を通じ、オリンピックやスポーツの持つ力、その素晴らしさを感じ取ってもらえたものと思います。オリンピック開催を機に、本市で学ぶ子どもたちには、限りなく夢を広げるとともに、ふるさと鹿嶋への愛着と誇りを持つことを願っています。

そして、聖火リレー及びオリンピック・「学校連携観戦プログラム」においては、多くの方々のご支援・ご協力をいただきました。聖火リレー時、スタート前に祭頭囃子を披露いただいた「溝口郷」及び「祭頭囃子楽師保存会」、沿道整理などを担当されたボランティア、ゴール周辺でチアリーディングを披露いただいた「鹿島学園」

の生徒、また、オリンピックにおいては、子どもたちに付き添い誘導されたPTA、学校あるいはバス駐車場から会場までの動線上において、子どもたちの見守活動や開幕日のスタジアム周辺の清掃活動にご参加いただいたボランティアなど、それぞれの皆様のご支援・ご協力無くしては事業が成り立ちませんでした。この場をお借りして皆様へ感謝申し上げます。

《事業の概要等》

続きまして、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要について、ご説明申し上げます。

(スポーツでつながるまちづくり)

オリンピックが開催された記念すべき年に、市内の中学校・高等学校から多くの生徒がスポーツ関連で全国大会へ出場しております。

鹿島学園高等学校硬式野球部が、創部33年目に初の「甲子園」出場を果たしました。残念ながら初戦突破はならなかったものの、テレビの画面越しに映し出された選手たちのはつらつとした、そして最後まであきらめないプレーに、多くの市民が感動し、勇気づけられたことと思います。

鹿島学園においては、「高校総体」へ、男子サッカー部が4年ぶり8度目の出場を果たしたほか、レスリング競技へ3名、水泳競技へ2名、陸上競技へ2名が出場しました。

また、鹿島中学校サッカー部が茨城県大会で優勝し、関東大会を経て全国大会へ出場しております。

これまでの積み上げてきた努力が実を結び、県大会を勝ち抜き、見事全国への切符を勝ち取り、本市が掲げる「スポーツ先進のまち」を具現化した選手、そして関係者の皆様に称えたいと思います。

(未来を創るひとづくり・まちづくり)

本市でのオリンピック開催期間中「2020+1 KASHIMA文化交流フェスティバル」がまちづくり市民センターで開催されました。「ひまわりのひな壇」や各地区の魅力を描いた「ペットボトル キャップアート」、市文化協会各団体の作品展示と市美術展覧会が同時開催され、コロナ禍の中、市民が芸術文化に触れる貴重な機会が提供されました。

また、オリンピックが無観客開催となり、観客へのおもてなしが出来ない状況になりながらも、2年前から地域の皆様が、一つ一つ手作りしてきた「和紙で彩られたうちわ」や「箸置き」「ポストカード」をプレスセンターでメディアの方々へ配布し、称賛をいただいたところです。

(地域資源を生かしたまちづくり)

茨城県において、産業におけるカーボンニュートラル社会に向けた取組を成長の原動力とし、官民連携により本県の将来を担う産業拠点の創出を目指す「いばらきカーボンニュートラル産業拠点創出プロジェクト」の推進を図るため、「いばらきカーボンニュートラル産業拠点創出推進協議会」が設置され、今月3日、初めての会議が開催されました。

協議会においては、立地企業の状況報告の後、取組方針として、当日付で「鹿島港」及び「茨城港」における「カーボンニュートラルポート形成計画作成ワーキンググループ」の設置等が確認されました。また、閉会後に開催された「鹿島港カーボンニュートラルポートワーキンググループ会議」では、石油化学、発電、製鉄などの立地企業の各分野におけるカーボンニュートラルへの対応やそれに配慮した港湾機能の高度化について調査・検討し、年度内に計画案をまとめることで合意しました。

本市としましては、当該プロジェクトに積極的に関わるとともに、再生可能エネルギーのけん引役と言われる洋上風力発電の基地港湾に指定された鹿島港外港地区を核とした地域振興を図るため、「洋上風力発電事業推進ビジョン」の策定に取り組み、関連産業が裾野広く立地する洋上風力発電拠点の形成を目指してまいります。

(住んで安心のまちづくり)

敬老の日を迎えるにあたり、長寿をたたえる事業としまして、本来であれば各地区において、式典を開催しお祝いしたいところでありましたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない状況から、今年度もやむなく実施方法を変更させていただきました。

式典に代わるものとして、昨年度と同様75歳以上になられる方を対象に、長寿をお祝いするメッセージカードと衛生用品、加えまして節目の方には特別記念品を、そして、市内飲食店への応援とともに対象者全ての方々に食事を楽しんで頂く、「長寿祝い膳食事券」をお送りさせていただきます。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

《決算認定》

次に、本議会で認定いただく、令和2年度決算についてであります。

一般会計につきましては、歳入総額が、前年度比37.2% 93億7,854万7千円増の345億9,108万4千円、歳出総額が、前年度比40.3% 97億4,323万1千円増の339億636万5千円となりました。

歳入歳出の大幅な増の要因としましては、主に新型コロナウイルス感染症対策及び一般廃棄物広域処理事業関連によるものとなります。歳入は、市税や財政調整基金繰入金等が減となる一方、一般廃棄物広域処理事業に係る地方交付税や、特別定額給付金事業費補助金並びに新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等により国庫支出金が大幅な増になっております。歳出につきましては、議会費や市街地液状化対策工事の皆減等により土木費が減となる一方、特別定額給付金給付事業等による総務費、並びに新可燃ごみ処理施設に係る衛生費の大幅な増、教育・保育施設入所支援事業による民生費の増、プレミアム付商品券発行事業による商工費が増となりました。

実質収支は、5億4,488万2千円の黒字となり、この2分の1相当額として、2億8,000万円を財政調整基金へ積み立て、本年度への繰越金は2億6,488万2千円となっております。

特別会計につきましては、7会計の総計といたしまして、歳入が1億5,064万6千円減の126億8,528万2千円、歳出が3億5,885万4千円減の122億3,026万8千円となり、歳入歳出の差引額は4億5,501万4千円の黒字となりました。

引き続き、市を取り巻く環境変化に対応した予算規模を推計しながら、持続可能で安定的な財政運営ができるよう、行財政改革の取り組みを進め、予算の効率的、効果的な執行を心掛けるとともに、市民の皆様が安心して暮らせる鹿嶋市を目指してまちづくりを推進してまいります。

《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案6件、条例関係議案7件、人事関係議案1件、道路関係議案1件、報告議案1件、諮問議案1件、認定議案3件、合わせて20件であります。

予算関係議案は、令和3年度の一般会計及び特別会計などの補正予算になります。

一般会計補正予算においては、税還付金関係、地域子育て支援事業、新型コロナウイルスワクチン接種経費、合併処理浄化槽等普及推進事業などについて計上して

おります。

国民健康保険特別会計においては、令和2年度事業費確定に伴う補助金返還金などを計上しております。

介護保険特別会計補正予算においても、令和2年度事業費確定に伴う国庫支出金等返還金などを計上しております。

農業集落排水特別会計においては、施設維持補修工事費を計上しました。

下水道事業会計と水道事業会計については、職員給与費などを計上しております。

条例関係議案は、市営宮中地区駐車場の設置及び管理に関する条例などでありませ

人事関係議案は、鹿嶋市教育委員会教育長の任命に当たり、議会の同意を求める

道路関係議案は、市道路線の認定についてであります。

報告議案は、生活困窮者自立支援事業に係る補正予算の専決処分についてであります。

諮問議案は、人権擁護委員候補者の推薦について、議会の同意を求めるものです。

認定議案は、令和2年度一般会計及び特別会計などの決算認定であります。

私の説明は以上で終わりますが、予算及び決算認定以外の議案につきまして

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。